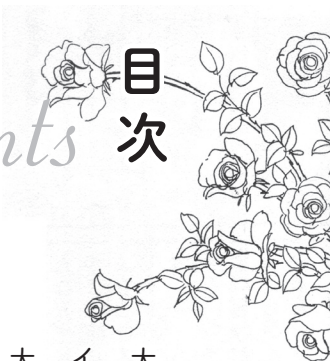


Contents 目次



大島弓子——それは終わらない奇跡	三浦沙良	21
イラスト集		28
大島弓子にまつわるA to Z		44
Selected scenes		55
引き籠る勇氣	嶽本野ばら	70
大島弓子との三つの出会い	東浩紀	74
●カバーコレクション①『シンジラレネーション』		79
リンスされた世界	松田青子	80
愛猫家からみた大島弓子	坂本美雨	84
●カバーコレクション②『鳥のように』		91
大島先生のアシスタントだったころ	二ノ宮知子	92
●カバーコレクション③『ロマンと叙情イラスト傑作集』		97
大島弓子にあこがれるまで	山口美生	98
●カバーコレクション④『さようなら女達』		103
ユミコ風	萩尾望都	104
「ハッピーエンドの女王」元担当者の顛末	松岡博治	108
●カバーコレクション⑤『大島弓子選集 第1巻 誕生』		113
大島弓子さんを追いかけて	山田美己子	114
●カバーコレクション⑥『雑草物語』		119
大島弓子作品のキャラクター解説	田中稲	120
座談会 一九八〇年代生まれが読む大島弓子		136
大島さんが描く食べもの集		148
キャッチャー・イン・ザ・ワタクニ	和久井香菜子	154
吉祥寺／チキジョージ	白峰彩子	158
『初期三十番までの作品のなりゆきと考察』	ナンテ 大島弓子	162
作品解説	図書の家(小西優里、岸田志野、卯月もよ) 三浦沙良 ヤマダトモコ	172



大島弓子 — それは終わらない奇跡

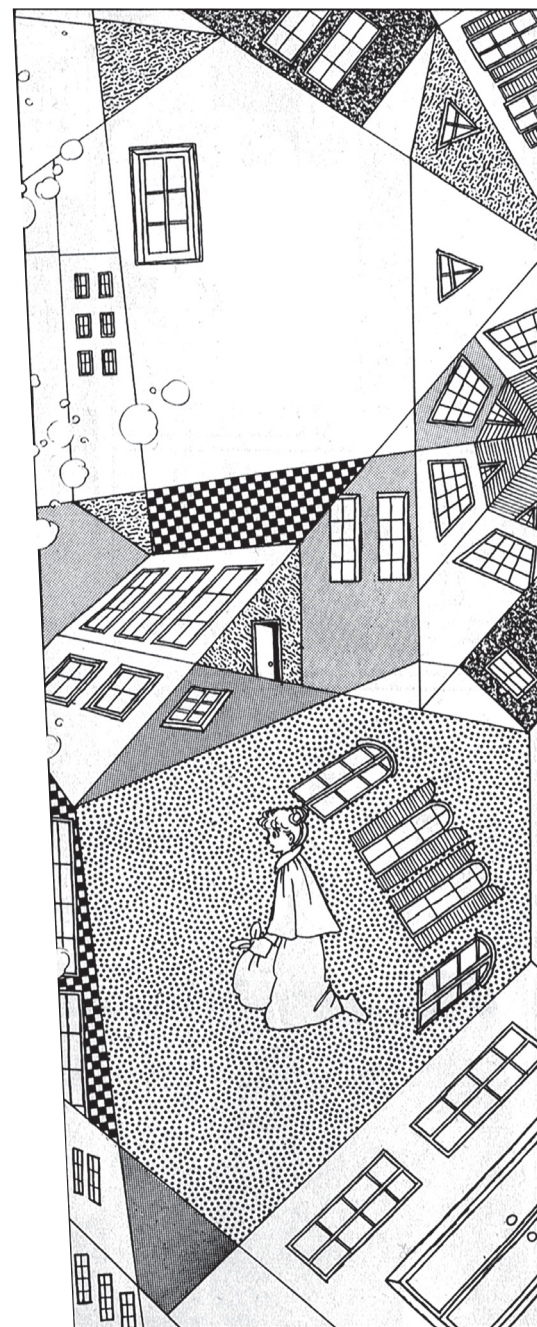
Yumiko Oshima
— The Everlasting Miracle



三浦沙良 ● Sara Miura

プロフィール

雑文作家。大島弓子には七〇年代に小学校三年生で出会う。リトルプレス発行レーベル Scapery Books 主宰。二〇一四年一二月現在新刊準備中。



あとがきまんがセレクション……………

194

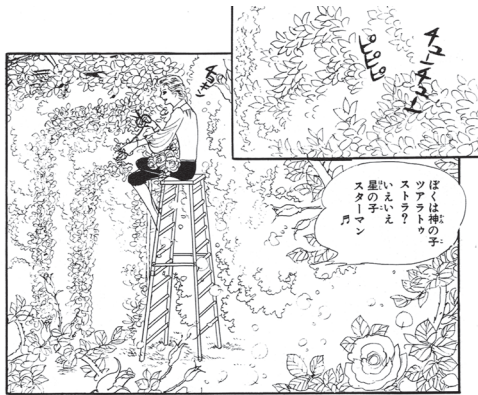
出典・初出リスト……………i

大島弓子作品リスト 1968-2014……………v

現在入手できる大島弓子作品が読める書籍リスト……………x

※本書で使用している図版の詳細は巻末にまとめて掲載されています。
資料協力：図書の家

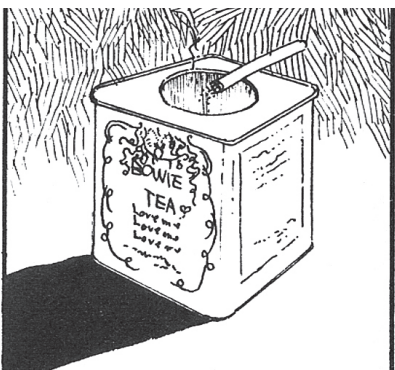




『いちご物語』より。歌うおおかみまん。「スターマン」は同名のデヴィッド・ボウイの曲からか。



『綿の国星』より。ラフィエルの見た目は70年代のデヴィッド・ボウイを想起させる。



『まだ宵のくち』より。紅茶缶に「BOWIE TEA」と書かれている。

cat

『綿の国星』のチビ猫から「サバシリーズ」『グーグーだつて猫である』『キャットニップ』まで、猫は大島作品とは切っても切り離せない。ラフィエル、双子のモルドとグリーン、タマヤ、キヤラウェイなど、魅力的な猫のキャラクターは数えきれない。サバまでは擬人化されて描かれていたが、『グーグーだつて猫である』以降は、猫の姿のまま作品に登場する。

C 猫

architecture

A 建築

「つるばらつるばら」で夢に見る家、「バナナブレッドの家をはじめ、「野イバラ荘園」「ミモザ館でつかまえて」など、美しい建築、特に洋館への憧れがよく描かれる。「夏のおわりのト短調」では叔母が住む美しい洋館が舞台となり、一九世紀イギリスの「お屋敷もの」小説やゴシック小説を思わせる。

大島弓子にまつわる A to Z

さまざまな要素で構成される大島ワールド。その一部を、AからZのキーワードで紹介します。



『F式蘭丸』より。森蘭丸について説明するよき子。



『ほうせんか・ばん』より。

bowie, david

一九四七年生まれのイギリスのミュージシャン。代表作に『ジギー・スターダスト』などがある。「ヒー・ヒズ・ヒム」のピーター・ピンクコート、「F式蘭丸」の蘭丸、『いちご物語』の日向温エル、「いちご物語」の日向温など、彼を思い起こさせるキャラクターは多い。「ほうせんか・ばん」には彼のグッズを売るシーンも。

B デヴィッド・ボウイ



作品解説

名作ぞろいの大島作品。
そのなかでも、
特におすすめのものを紹介します。

図書の家（小西優里、岸田志野、卯月もよ）
三浦沙良
ヤマダトモコ

1968年

ポーラの涙

初出『週刊マーガレット』
一九六八年春休み増刊四月一〇日号
入手しやすい収録書籍
『大島弓子選集 第1巻 誕生』
（朝日ソノラマ）ほか（すべて絶版）

短大英文科在学中に発表したデビュー作。血のつながらない母子の確執と心の交流の物語。主人公のポーラがとても愛らしく描かれており、大島の小さきものを守る視線がこのデビュー作から遺憾なく発揮されている。お馴染みの走り去る少女の後ろ姿や、舞い散る木の葉といった演出も既に頻出している。

1970年

誕生

※原題…誕生！
初出『週刊マーガレット』
一九七〇年五三号〜一九七一年八号
入手しやすい収録書籍
『大島弓子選集 第1巻 誕生』
（朝日ソノラマ）ほか（すべて絶版）

初期の代表作。貧困、傷病、戦争といった悲劇ものを担当していた大島が、当時の少女マンガではタブーとされていた女子高生の妊娠と捨て子事件というショッキングなテーマを取り上げた。親友の妊娠発覚と同時に、自分が望まれぬ子であったことを知る玲。その子に自分を重ね合わせ、親友とお腹の子を守ろうとす

1971年

あしたのともだち

初出『別冊少女コミック』一九七二年一〇月号
入手しやすい収録書籍
『大島弓子選集 第1巻 誕生』
（朝日ソノラマ）ほか（すべて絶版）

『マーガレット』の専属を離れて小学館の『少女コミック』に発表した作品。巻



「誕生」より。

頭カラーでの初登場だった。咲子は成績優秀な高校生だが、一三歳の時に出産した幼い娘を育てるため、夜は踊り子として働いていた。しかし補導されて退学の

危機に。クラスメイトの森たちが咲子を助けようと団結するラストは、未来への希望に満ちている。

1972年

雨の音がきこえる

初出『別冊少女コミック』
一九七二年一〇月号〜二月号
入手しやすい収録書籍
『大島弓子選集 第2巻
ミモザ館でつかまえて』
（朝日ソノラマ）ほか（すべて絶版）

四姉妹の中で一人劣等感に苛まれる秋子。実は、彼女は養女だった。急逝した養母の代わりになるうとして失敗続きの秋子と家族をめぐる物語。異兄妹である美しい転人生がクライストの「拾い子」を朗読するシーンや、フランス語風の副題「ラ・レッセー・イデン」も印象的だ。家族と日常をテーマにした初期の代表作。

